

散策アプリ便利さ実感

県立大・きんたろう倶楽部 呉羽丘陵で実地テスト



来月完成へ問題点探る

県立大の学生サークル「イメーシトレイニー」は13日、開発中のタブレット端末用地図アプリケーション「呉羽山散策アプリ」の実地テストを、富山市の呉羽丘陵で行った。呉羽丘陵を散策する人のサポートを目的としたアプリで、開発を依頼したNPO法人きんたろう倶楽部（鏡森定信理事長）のメンバーが端末を手に歩き、便利さを実感する一方で問題点も指摘した。

アプリはGPS（衛星利用測位システム）機能を使い、展望スポットやトイレ、バス内。分岐点では事前に撮影した周辺360度の風景を映し出す機能もあり、散策者は実際の風景と見比べることで正しい道を選ぶことができ

る。テストには学生と同倶楽部メンバーら17人が参加。3グループに分かれ、今回開発対象とした散策路を1時間かけて歩いた。同倶楽部メンバーは「散策路が詳細に示され、等高線もあり便利」「端末ばかり見えてしまい、あまり景色を楽しめない」などと感想を学生に伝えていた。

サークル代表の情報システム工学科3年の酒井一樹さんは「問題点がたくさん見つかった。今後もテストを重ね、精度を高めると同時に、使用感を良くする工夫もしたい」と話していた。アプリは7月の完成を目指す。

タブレット端末を見ながら、呉羽丘陵を歩く学生ときんたろう倶楽部メンバー